

ろそろこういう領域に踏み込まねばならないだろう．というのは、アレとコレは同種だとか異種だとか変種だとかを判断するには、物質的な（量的な）証拠のみならず、*taxon* についての広範な予備知識が必要だ、ということが定着しかけたと思ったら、今度は *epigenetics* という現象の存在が知られた結果、あらためて全体系を見直す必要が出てきたからである．

本書は一般の研究者はおろか、専門分野の人でも理解にくい、*epigenetics* という現象の基本的な考え方と、その面白さを知ってもらおうと書

かれたもので、難しいリクツや数式や構造図は、なにも出て来ない．私はこういう領域は元々敬遠していて、本書を読んだから何が分かったか、と尋ねられても返事ができないのだが、*epigenetics* という現象の及ぶ拡がりが見らくなるにつれて、分類学の全体系についても、ゆさぶりがかかるようになるのだろうと思う．分子生物学について、何も知らない人間の感想である．もう少々分かり易い、新刊紹介をしてくれる人の出現を期待する．
(金井弘夫 H. KANAI)

91 巻 正誤 (2016) Errata in Vol. 91 (2016)

ページ (Page)	カラム (Column)	行 (Line)	誤 (For)	正 (Read)
337	summary	↓ 2	Tuyama	Tuyama ex Fosberg & Sachet
337	summary	↑ 2	<i>strigulosa</i>	<i>strigulosum</i>
338	left	↓ 9	<i>L. mexicanum</i>	<i>L. grayi</i>
341	right	↑ 17	<i>strigulosm</i>	<i>strigulosum</i>
343	right	↓ 8	Tuyama	Tuyama ex Fosberg & Sachet
343	right	↓ 17	DC.	Bartl. ex DC.
343	right	↑ 10	DC.	Bartl. ex DC.